

土砂防だより



新緑の富士山(富士市)

新支部長就任の御挨拶	2
全国治水砂防協会 静岡県支部通常総会を開催	3
全国治水砂防協会通常総会が開催される	
土砂災害防止月間の取組	4
・土砂災害防止月間啓発活動の実施	
・急傾斜地パトロールの実施	
・市町等における広報活動の取組	
・路線バスのフロント広告を活用した土砂災害防止の啓発	
「土砂災害・全国防災訓練」を実施	6
富士山ハザードマップが改定されました	7
富士山大沢崩れでスラッシュ雪崩が発生	
令和2年度砂防関係事業の代表的な完成箇所	8
わがまち「森町」	9
歴史探訪	
インフォメーション	10
募集・お知らせ	12

特集 第76回全国治水砂防協会 静岡県支部通常総会

「土砂災害防止月間」の取組 「土砂災害・全国防災訓練」を実施



新支部長就任の御挨拶

盛夏の候、会員の皆様には、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

当支部令和3年度通常総会において、前袋井市長の原田英之さんに代わり、全国治水砂防協会静岡県支部第8代支部長に就任いたしました須藤秀忠です。どうぞ、よろしくお願いたします。

近年、豪雨が頻発化する中で、土砂災害も増加し、激甚化しております。

土砂災害は突発的で発生予測が難しく、直接、住民の生命に関わるものでありますが、台風の大型化や線状降水帯の発生による豪雨の影響により、毎年、全国で多くの発生と被害が報告されております。

本県は、霊峰富士をはじめ、風光明媚な景観である反面、山地が全体の面積の7割を占め、もろく、崩れやすい地質が広く分布しているため、豪雨や地震等により、毎年約50件の土砂災害が発生しており、昨年も7月豪雨を中心に、住宅の半壊等の被害が報告されたと聞いております。

このような状況下、県民の安全・安心を確保していくためには、ハード・ソフトの両面から対策を推進していく必要があり、土砂災害防止施設の整備や防災知識の普及・啓発など、国、県、市町が連携を図りながら一体となり、取組を進めていくことが重要です。

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、行動の制限が余儀なくされる状況下ではありますが、予算の確保と防災・減災対策の支援、住民への土砂災害の危険性・避難の重要性の伝達等、当支部の様々な取組を停滞させず、一層深化させ発展させていくことが何より重要と考えております。

原田前支部長が、10年にわたり築き上げた組織の運営を受け継ぎ、誠に微力ではございますが、協会本部や会員の皆様と連携し、支部の運営にまい進していく決意です。

今後も本支部の発展のため、力を尽くしてまいります。引き続き、会員の皆様の御支援、御協力を賜りますよう、お願い申し上げます、就任の御挨拶とさせていただきます。

全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 須藤 秀忠



原田支部長が退任

令和3年3月25日(木)、原田支部長が来庁された際に、これまでの支部での活動に感謝を込めて、花束をお送りいたしました。

原田前支部長は、平成22年3月からの約11年にわたり当支部の支部長を務められ、袋井市長の任期である令和3年4月をもって、退任されました。

支部長就任前の平成13年からの約9年間 副支部長を歴任されていたことから、約20年間の永きにわたり当支部の発展に御尽力下さいました。

歴代の静岡県の支部長は、国会議員や県知事等が務めていましたが、全国的な流れの中で、当時副支部長であった原田袋井市長の支部長就任となりました。

土砂災害の激甚化、頻発化に対し、土砂災害から住民の命を守るためには施設整備だけではなく、市町が行う警戒避難体制の一層の拡充が重要であるため、早期から、市町のの目線で静岡県支部の運営に当たって頂きました。

全国治水砂防協会静岡県支部の発展に永きにわたり御尽力頂きましたことについて、改めて感謝申し上げます。



県庁交通基盤部長室での花束贈呈の状況(中央:原田支部長)

本県の砂防事業の重要性を訴える

静岡県支部通常総会を開催



開会挨拶(須藤支部長職務代理者時点)

5月17日(月)、全国治水砂防協会静岡県支部の令和3年度(第76回)通常総会を静岡市内で開催し、県内の市町長等が出席されました。

GW以降、新型コロナウイルス感染症の感染者数が拡大傾向となったため、急遽予定を変更し、来賓等の出席を見合わせる等とともに開催時間を短縮する等、可能な限りの感染対策を施し、総会の規模を縮小しての開催でした。

開会にあたり、支部長職務代理者の須藤富士宮市長が、約7割が山地である本県は毎年約50件の土砂災害が発生しており、住民に土砂災害の危険性や避難、防災・減災対策の重要性を伝える取り組みは、発展させていくことが何よりも重要であると訴えました。

続いて、当支部顧問の和田交通基盤部長が挨拶を行い、その後議案の審議が行われました。議案となっていた役員の改選では、空席となっていた支部長に富士宮市長が就任されました。また令和2年度の事業報告と収支決算報告、令和3年度の事業計画と収支予算等の審議が行われ、滞りなく総会が終了できました。関係された皆様に改めて感謝申し上げます。



和田交通基盤部長の挨拶



太田副支部長の就任挨拶



柳澤委員の就任挨拶

役員の改選結果

支部総会で役員の改選(案)が承認され、令和3・4年度の役員が決定しました。

- 支部長：須藤秀忠 富士宮市長
- 副支部長：菊地 豊 伊豆市長、太田康雄 森町長
- 会計監査役：鈴木敏夫 川根本町長、岡部克仁 南伊豆町長
- 委員：田辺信宏 静岡市長、鈴木康友 浜松市長、豊岡武士 三島市長、小野達也 伊東市長、中野弘道 焼津市長、柳澤重夫 御前崎市長、太田長八 東伊豆町長、池谷晴一 小山町長
- 顧問：和田直隆 静岡県交通基盤部長
- 常任幹事：木村尚之 静岡県河川砂防局技監

全国治水砂防協会通常総会が開催される

5月27日(木)、(一社)全国治水砂防協会の令和3年度(第85回)通常総会が、砂防会館別館で開催されました。

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から最小限の人数での開催となり、当支部では、各会員が委任状を提出するとともに、支部長名で祝電を出させていただきました。

議案の審議では、令和2年度事業報告及び収支決算審議並びに公益目的支出計画実績報告、令和3年度事業計画報告及び収支予算報告、役員等改選審議、定款改正審議が協議され、原案どおり承認されたとの報告を受けています。

令和3年度 「土砂災害防止月間」

6月1日(火)～30日(水)

毎年、各地で発生する土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害により、多くの人命や財産が失われています。国土交通省と静岡県では、梅雨前線等により雨量が多く、地盤がゆるみ土砂災害が発生しやすくなる6月を「土砂災害防止月間」とし、土砂災害とその防止について県民の皆様の理解と関心を深めていただくため、様々な活動を行いました。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大の観点から、例年と異なる取組を行っています。

令和2年に発生した土砂災害件数

	土石流	地すべり	がけ崩れ	計	死者 行方不明者
全国土砂災害発生件数	223件	117件	979件	1,319件	21名
静岡県土砂災害発生件数	6件	3件	39件	48件	0名

主な活動

- 土砂災害防止月間啓発活動の実施
- 急傾斜地パトロールの実施
- 広報活動の取組
- 路線バスのフロント広告を活用した啓発
- 土砂災害防止に関する絵画・作文の募集及び展示
- 「土砂災害・全国防災訓練」の実施 など



立看板 (静岡県庁本館正面玄関)

1 土砂災害防止月間啓発活動の実施

6月2日(水)、JR静岡駅改札口前コンコースにて「土砂災害防止月間」啓発活動を実施しました。

県と国土交通省静岡河川事務所、静岡地方气象台、静岡市の職員12名が、静岡駅を利用されるみなさまに「日頃の備え」と「早めの避難」を啓発しました。

新型コロナウイルス感染防止対策のため、動画メッセージを流すとともに、机上にリーフレットや啓発グッズを配置して、通行される方にご自由にお持ち帰りいただきました。



啓発活動の様子 (静岡駅)

～関係機関や砂防ボランティアとの協働～

2 急傾斜地パトロールの実施

急傾斜地崩壊危険区域において、市町や警察、消防等の関係機関や砂防ボランティアと連携し、急傾斜地崩壊防止施設の異状の有無や法面の崩壊、排水路の機能状況等を点検する急傾斜地パトロールを実施しました。

今年度からタブレットを活用した点検を実施しており、点検結果の入力や報告書作成などの事務作業軽減を図っています。

また、今年度各土木事務所にドローンが配備されたことから、試験的に急傾斜地パトロールで活用し、課題の確認を行いました。



急傾斜地パトロールの状況 (菊川市)

の取組

3 市町等における広報活動の取組

市町や土木事務所において、土砂災害防止の広報活動として、広報誌やホームページ等への掲載、庁舎の横断幕や懸垂幕等の掲示、公用車へのマグネットシートの貼付やポスターの掲示などに取り組んでいただきました。



懸垂幕掲示(伊豆の国市)



令和3年度 土砂災害防止月間ポスター

広報誌への掲載	下田市、東伊豆町、南伊豆町、御殿場市、裾野市、長泉町、富士市、静岡市、焼津市、川根本町、菊川市、御前崎市、湖西市、砂防課 (13 市町)
インターネット、SNS を活用した広報	焼津市、島田市、砂防課、下田土木事務所 (2 市)
横断幕、懸垂幕、立看板の掲示	河津町、南伊豆町、西伊豆町、伊東市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、富士宮市、静岡市、牧之原市、川根本町、磐田市、掛川市、袋井市、菊川市、森町、御前崎市、浜松市、砂防課、熱海土木事務所、静岡土木事務所、袋井土木事務所 (18 市町)
ポスター掲示	各市町関係機関、県内ミニストップ 155 店舗、砂防課、各土木事務所、各地域局、各農林事務所
路線バスのフロント広告	東海バス、伊豆箱根バス、富士急バス、静鉄バス、遠鉄バス

4 路線バスのフロント広告を活用した土砂災害防止の啓発

県内の路線バスを運行するバス会社5社と連携し、バスフロント部の広告を活用し、「日頃の備え」と「早めの避難」を県民の皆様にも周知していきます。

この取組により、県内の都市部から山間部まで広域に、バス運行時間(特に明るい時間帯)の長時間にわたり、バス利用者やすれ違い車両、歩行者等の道路利用者にも幅広く啓発できる効果を期待しています。

なお、月間の初日である6月1日(火)に、静岡市内のバス営業所において、広告幕の引渡式を開催しました。



バス営業所長と杉本砂防課長による引渡式の状況



静岡市内のバス運行の状況

「土砂災害・全国防災訓練」を実施

～避難の声かけ、安全の確認～

6月6日(日)の全国統一実施日を中心に、「土砂災害・全国防災訓練」を実施しました。

これは、6月の「土砂災害防止月間」の取組の1つとして、土砂災害に対する避難体制の強化と防災意識の向上を図ることを目的に土砂災害警戒区域等における住民参加による実践的な避難訓練を実施するものです。

今年度は新型コロナウイルス警戒レベル5が発表されたことを受け、県としては対面や接触を伴う実動訓練は中止とし、人の移動や接触機会の制限に考慮した情報伝達訓練やWeb会議システムを活用した訓練が実施されました。また、一部の市町では、感染対策を講じながら講習会等が実施されました。

訓練参加市町

- ◆6月6日(日) 22市町
下田市、東伊豆町、南伊豆町、松崎町、熱海市、沼津市、三島市、御殿場市、裾野市、伊豆の国市、函南町、長泉町、富士市、島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、川根本町、吉田町、袋井市、菊川市、御前崎市
- ◆6月6日(日)以外 9市町
伊豆市、清水町、小山町、富士宮市、静岡市、磐田市、掛川市、浜松市、湖西市

訓練の状況



地域内の危険箇所点検
(6月6日:川根本町)



情報伝達訓練
(6月6日:藤枝市)



消防団による避難広報
(6月6日:袋井市)



Zoomによる防災講習会
(6月25日:浜松市)



情報伝達訓練
(6月6日:沼津市)



市職員による講習会
(6月6日:三島市)



Web会議システムを活用した映像通信訓練
(6月6日:焼津市)



防災講習会
(6月6日:富士市)



声かけ訓練
(6月6日:東伊豆町)

富士山ハザードマップが改定されました

1 富士山ハザードマップの改定

富士山ハザードマップについて、平成16年の策定以後、地質調査等による新たな科学的知見が蓄積されたことを踏まえ、富士山火山防災対策協議会において平成30年度から改定作業を進め、令和3年3月26日に開催した第11回協議会にて改定・公表されました。

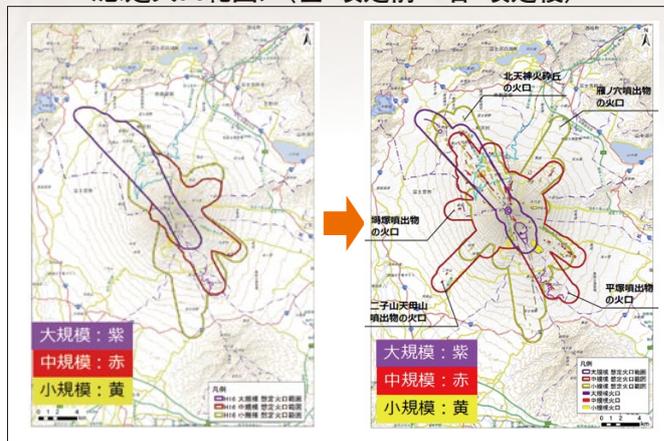
2 改定後の富士山ハザードマップについて

今回の改定では、新たな噴火口の発見等により想定火口範囲が拡大したほか、溶岩流を例にみると、数値シミュレーションにて大規模溶岩流の噴出量を平成16年版の約2倍である13億立方メートルに変更したことや、地形データを精緻化したことにより、溶岩流は大きな河川や平野部を流下し、影響想定範囲が拡大する結果となりました。また、想定火口範囲の拡大などに伴い、市街地への到達時間も早くなりました。

今回の改定を受けて、富士山火山防災対策協議会では令和3年度中に富士山火山広域避難計画を改定することとしています。

なお、富士山ハザードマップには、個々の火山現象を数値シミュレーションなどによって描いた「ドリルマップ」と火山現象の最大到達範囲や最小到達時間を網羅的に可能性領域として示した「可能性マップ」があり、県のホームページ(<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/fujisanhazardmap.html>)に溶岩流や火砕流など火山現象ごとに改定後のハザードマップを掲載しています。

<想定火口範囲> (左:改定前 右:改定後)



富士山大沢崩れでスラッシュ雪崩が発生!

令和3年3月21日(日)、富士山西側山麓に位置する大沢崩れからスラッシュ雪崩によると思われる土石流が発生しました。

富士山周辺では、降雨により、大沢川上流の大滝雨量観測局で時間最大雨量31mm(3月21日15時~16時)、累加雨量258mmを観測しました。

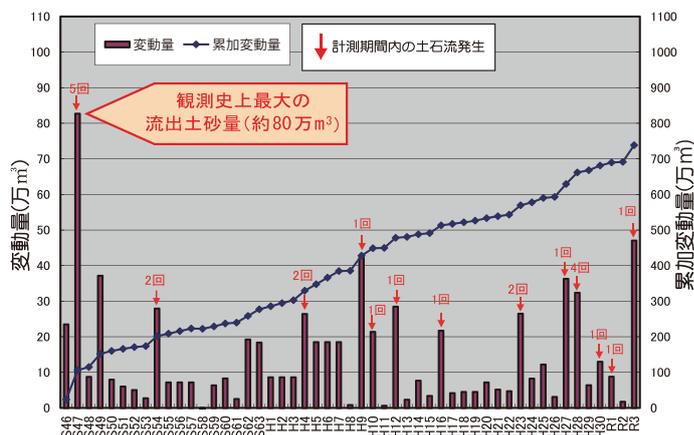
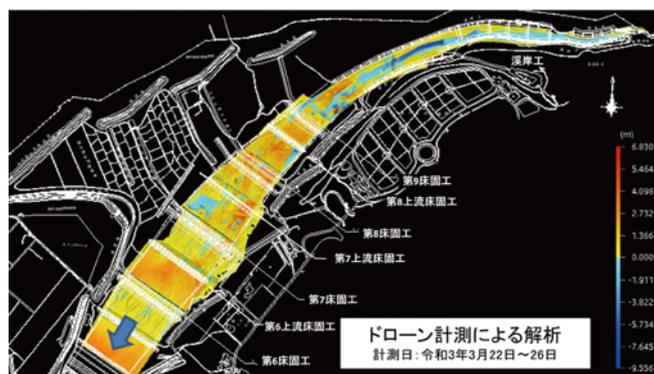
富士砂防事務所では防災体制をとり、監視カメラによる監視を行っており、14時8分頃に岩樋観測所のカメラで土石流の発生を確認しましたが、大沢川遊砂地が効果を発揮し、下流域での被害はありませんでした。

その後、3月22日から26日にかけてドローンを活用した計測・解析を行ったところ、大沢川遊砂地で捕捉した土量が約47万m³(速報値)に達することが判明しました。

これは大沢川遊砂地を設置して以降、一回の降雨による土砂捕捉量としては過去最大です。



土石流の発生状況



大沢川土石流発生状況(昭和46年~令和3年)

令和2年度

砂防関係事業の代表的な完成箇所

砂防事業

●南郷北沢 砂防堰堤工 (賀茂郡松崎町南郷 地先)



南郷北沢では、砂防堰堤1基を整備し、人家14戸と南郷公民館の保全を図りました。

●三沢川 溪流保全工 (袋井市山崎 地先)



三沢川では、溪流保全工L=520mを整備し、袋井市立笠原小学校や主要地方道袋井大須賀線などの保全を図りました。

急傾斜地崩壊対策事業

●内房山口B 擁壁工 (富士宮市内房 地内)



内房山口Bでは、急傾斜地崩壊対策工事として擁壁工等を整備し、人家13戸の保全を図りました。

●姥ヶ谷 擁壁工 (島田市阿知ヶ谷 地内)



姥ヶ谷では、急傾斜地崩壊対策工事として擁壁工を整備し、人家16戸と指定避難所の保全を図りました。

※令和2年度に工事を実施し、完成した箇所

事業名	箇所名	事務所名	位置	事業費(百万円)	着手年度	事業概要
砂防	大日川	下田土木	賀茂郡南伊豆町市之瀬	286	H26	砂防堰堤工 H=11.5m、L=85m
	南郷北沢	下田土木	賀茂郡松崎町南郷	114	H30	砂防堰堤工 H=7.0m、L=66m
	石脇沢	熱海土木	伊東市八幡野	357	H29	砂防堰堤工 H=10.5m、L=70m
	萩沢	熱海土木	伊東市玖須美元和田	235	H24	砂防堰堤工 H=9.0m、L=45.5m
	田中沢	富士土木	富士市木島	118	H29	砂防堰堤工 H=7.5m、L=34m
	中谷津西沢	静岡土木	静岡市清水区蜂ヶ谷	227	H26	砂防堰堤工 H=10.5m、L=41.5m
	神座中沢	島田土木	島田市神座	249	H28	砂防堰堤工 H=9.0m、L=80m
	三沢川	袋井土木	袋井市山崎	273	H25	溪流保全工 L=520m
	田沢椎ノ下沢	浜松土木	浜松市北区引佐町田沢	399	H30	砂防堰堤工 H=14.5m、L=55m
急傾斜地崩壊対策	金山	沼津土木	伊豆市湯ヶ島	415	H23	擁壁工 L=298m
	大平柿木助惣	沼津土木	伊豆市大平柿木	82	H27	擁壁工 L=67m
	下柚野瀬戸山	富士土木	富士宮市下柚野	295	H26	擁壁工 L=258m
	内房山口B	富士土木	富士宮市内房	236	H27	擁壁工 L=228m
	姥ヶ谷	島田土木	島田市阿知ヶ谷	247	H26	擁壁工 L=200m
	和田	袋井土木	掛川市和田	352	H22	擁壁工 L=354m
	上田町	浜松土木	湖西市新居町新居	149	H27	掘削工 V=45,000m ³
	大久保小蓋	浜松土木	浜松市西区大久保町	157	H27	擁壁工 L=205m

※地すべり対策事業は完成箇所無し



森町

森町は三方を小高い山々に囲まれ、中央を太田川が流れる風情豊かな町です。

県西部に位置し、東西13km、南北24km、面積134km²で、うち約7割が森林です。

かつては火伏せの神秋葉神社へ通ずる街道の宿場町として、江戸時代中期頃からは古着の町として葛飾北斎の「栄える都市の番付」の前頭に、その名が掲げられるほどの盛況をみせていました。明治時代の中頃、森町を訪れた地理学者志賀重昂は、山紫水明のこの町を「小京都」と称賛し、以来、遠州の小京都と呼ばれるようになりました。

近年は新東名高速道路の開通に伴い、町の東側に「森掛川IC」が、中西部には「遠州森町



小高い山々と太田川



下田沢砂防堰堤

PA」に併設して「遠州森町スマートIC」が設置されました。2つのインターチェンジができたことにより、利便性の飛躍的な向上によって交流が盛んになり、発展することが期待されています。

さて、平成22年から事業着手されていた、鍛冶島地区下田沢の砂防工事が平成25年に完成し、新たに、西俣地区、黒石地区の事業着手が予定されています。

今後も住民が安全に暮らせる生活環境づくりに関係各位のなお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

歴史探訪

県西部地域初の砂防工事

明治30年の砂防法制定から14年後の明治44年に、小笠郡原泉村（現掛川市居尻）が砂防設備を要する土地として砂防指定地となり、同年から太田川支川原野谷川小支安尾沢（居尻地先）にて、県西部地域で初めての国庫補助砂防工事を実施しました。当時は、山腹工を主体とし、法切工、萱筋工等と直接山腹崩壊を抑止する石積堰堤工が主な工法でありました。

安尾沢では国庫補助砂防工事として、明治44年から大正7年、大正10年に石積堰堤及び石積水路等が整備されました。最下流の石積堰堤については、昭和35年に被災したことからコンクリートによる復旧を行っていますが、それ以外の石積堰堤や石積水路等については、現在も自然に調和し、溪床の安定に効果を発揮しており、当時の石工の技術力の高さを実感いたします。



石積堰堤工



山腹工(石積)



石積水路工

令和3年度 砂防関係事業担当者会議の開催

4月12日(月)に、各土木事務所の砂防関係事業担当者を対象とした「砂防関係事業担当者会議」を開催しました。当日は、換気等によりコロナウイルス感染予防に配慮をしながら実施しました。

会議では、まず、砂防課の担当者から最近の砂防関係事業における話題について情報提供を行い、次に、各土木事務所の担当者から事業を執行するにあたり、提案された議題について、活発な議論が行われました。



会議の様子

令和3年度 東海地区砂防課長会議・東海ブロック砂防主管課長会議が開催される

4月28日(水)に、東海地区砂防課長会議・東海ブロック砂防主管課長会議が、WEB会議により開催されました。

国土交通省砂防計画課永野課長補佐をはじめ、中部地方整備局及び岐阜県・静岡県・三重県・愛知県の各県砂防主管課長等が出席しました。

会議では、国土交通省砂防部からの連絡事項「砂防行政に関する最近の話題」等、本省からの議題に関する討議及び各機関からの提案議題の討議が行われました。



Web会議の様子

警戒避難体制に関する説明会及び意見交換会の開催

5月18日(火)～28日(金)に県内4会場で、各市町の担当職員を対象として「土砂災害防止対策の推進に関する意見交換会」を開催しました。

近年、土砂災害が頻発化・激甚化し、多くの犠牲者が出ている一方で、災害リスク情報等に関する住民への周知不足など、実効性のある避難の確保が課題となっています。

本会議では、県全体で警戒避難体制の充実と強化を図ることを目的として、以下の議題について各市町における先進的取組や課題等を共有しました。

- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成状況及び課題
- ・土砂災害に関する地区防災計画の作成状況
- ・実効性のある避難の確保に向け、各市町で実施している取組事例



意見交換会の様子(静岡会場)

令和3年度 砂防学会研究発表会(オンライン大会)が開催される

5月19日(水)～21(金)に、砂防学会オンライン大会が開催されました。LincBizと呼ばれるプラットフォームでアカウントを確認し、Zoomのメインルームから各セッション(ブレイクアウトルーム)に進み、聴講するもので、質問者は「手を挙げる」ボタンなどで口頭発表者との意見の交換ができました。発表資料が画面に表示されるため見やすく、移動時間の制約もないため、聴講の自由度が高く良い大会となりました。

詳細については、砂防学会ホームページを御覧ください。

全国砂防主管課長会議が開催される

5月26日(水)に、全国砂防主管課長会議が、WEB会議により開催され、国土交通省三上砂防計画課長、伊藤保全課長をはじめ、各地方整備局及び各都道府県の砂防主管課長等が出席しました。

会議では、国土交通省砂防部の両課長のあいさつに続き、本省の各担当補佐等から最近の話題としての情報提供がありました。その後、土砂・洪水氾濫対策の取組等、各県が先進的に取り組んでいる事例についての紹介がありました。



Web会議の様子

国土交通省直轄砂防事務所・県砂防課合同打合せ会を開催

6月3日(木)に、「国土交通省直轄砂防事務所・県砂防課合同打合せ会」を、静岡県庁で開催しました。合同打合せ会は、県内の直轄砂防事務所である静岡河川事務所、沼津河川国道事務所、富士砂防事務所と県砂防課が、本年度の事業計画や最新の取組み、連絡事項等を情報共有し、各機関の円滑な事業実施を目的に毎年開催しています。

今回の合同打合せ会では、各機関による補正予算への対応状況及び不調・不落対策、県が取り組む3次元点群データ取得のための航空レーザ測量、土砂・洪水氾濫対策計画の実施などについて、情報の共有を図りました。



打合せの様子

市町等砂防担当職員研修を開催～土砂災害警戒情報による「早期避難を目指して!」～

6月10日(木)、17日(木)に、市町等の砂防・防災担当職員を対象に、土砂災害に関する防災気象情報や「危険度分布」を確認できるウェブサイトなどの実践的な研修を、静岡地方気象台と共同で県庁東館のOA研修室で開催しました。

新型コロナ対策として、会場の定員を半分にし、3回に分けて開催いたしました。研修は、19市町と県の担当職員合わせて34人が出席し、静岡地方気象台土砂災害気象官から「静岡県の気象と防災気象情報」について、砂防課から県のウェブサイトで公開している「土砂災害警戒情報補足情報システム」について説明を行った後、パソコンを操作し避難指示の発令を想定した危険度の判定などの演習を行いました。

梅雨シーズン後半に向け、土砂災害が発生しやすい季節になることから、参加者からは、「土砂災害や気象防災情報の基礎的な知識を確認することができてよかった」、「補足情報システムを利用したことがなかったが、今後の出水時対応で活用したい」など、多くの貴重な意見や感想が寄せられました。



静岡地方気象台土砂災害気象官の説明



「土砂災害警戒情報補足情報システム」の活用演習

静岡地方気象台と県砂防課の合同現場研修会の開催

6月22日(火)に、「静岡地方気象台と県砂防課の合同現場研修会」を富士宮市等で開催しました。

これまで気象台の職員が土砂災害対策の現場を見る機会がなかったことから、気象台からの提案で開催することとなり、気象台から防災気象官、土砂災害気象官等4名、県砂防課職員4名の計8名が参加しました。

今回の現場研修では、がけ崩れが発生した箇所での施設整備の方針、土石流対策の事業の流れ、富士砂防事務所で開催した大沢川遊砂地の効果等について、現場を視察しながら説明を行ない、土砂災害対策の重要性を再認識していただきました。



現場研修会の様子

【令和3年度】土砂災害防止啓発用品の紹介等

当支部では、土砂災害防止啓発のため、下記の啓発用品を作成・配布しました。
御活用いただきありがとうございます。



募集・お知らせコーナー

土砂災害防止に関する絵画・作文の募集

今年度も、土砂災害の恐ろしさや土砂災害防止についての理解と関心を深めるため、絵画・作文を募集します。

【募集対象】小・中学生

【応募期間】6月1日(火)～9月15日(水)

【応募方法】作品には応募者の学校名(ふりがな)、学年、氏名(ふりがな)を明記して下さい。

【応募先】〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号

静岡県交通基盤部砂防課 砂防班

TEL(054)221-3044 FAX(054)221-3564

詳細は、砂防課ホームページからもご覧いただけます。

<https://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-350/index.html>



ジオフォーラム 2021 IN 静岡

【日 時】令和3年10月29日(金) 10:00～16:30

【会 場】しずぎんホール ユーフォニア

※全国治水砂防協会静岡県支部が協賛しています。

参加
無料



- 9月 1日(水) 防災の日
- 11月10日(水) 東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議(愛知県内)
- 11月18日(木) 全国治水砂防促進大会(砂防会議)
- 11月18日(木) 静岡県支部砂防関係事業促進要望(議員会館等)
- 11月 下旬 市町等砂防担当職員現場研修



【表紙写真】

新緑の富士山

(撮影地:富士市)

写真提供:静岡県観光協会

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。

編集・後・記

今年の「土砂災害防止月間」の取組として、毎年行っている静岡駅での街頭キャンペーンに加え、県内の路線バスの前面に広告幕を掲載させていただきました。一か月間の運行で限られた台数でしたので、もし運が良ければ見かけていただけたのではないのでしょうか。(私は一日に2台も見かけることができました。)

今後もコロナ禍において、どのような形で啓発活動ができるのか、工夫を凝らして活動を続けていきたいと思っています。

まだまだ雨が降る季節ですので、大雨の際には早めの避難を心がけましょう。

砂防だよりは砂防課ホームページでご覧いただけます。 <https://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-350/index.html>